
□20:今日のピックアップ : 公務員改革私案

間もなく『特別会計』に関する事業仕訳が始まる。一般会計の数倍にもおよぶ特別会計が、一般の我々には、ノーチェックでやりたい放題であるかのように映っている。諸悪の根源がここにあるといっても、あながち間違いではないだろう。この特別会計をバックに天下りが横行し、本紙で表現される襖の向こう側で行われる『すきやき』パーティーが維持される。このまま放置すれば早晩破綻するのは、誰の目にも明らかだ。それができないのは、官僚達が長きに渡りセッセと築いてきた組織の壁に阻まれているからに他ならない。

民主党鳩山政権時のマニフェスト『公務員の2割削減』に見られるように目標の立案はできるのだが、それを達成する具体策ができなかったのは何故？
そこで事業仕訳に先立ち、公務員改革の私案を述べてみたい。

公務員改革の根幹は、

『公務員の、公務員による、国民（住民）のための改革』でなければならない。

そのためには

（１）公務員の意識改革

- ・『失敗をするよりは、何もしないでやり過ごす』・・・を駆逐する
- ・半期または一期ごとに、前期より以上の負荷を自らに課す目標設定が当然であること。
- ・民間企業のリストラと称する仲間の『首切り』で血を流すことも辞さない意識を持たせる。

（２）政治主導の徹底

- ・政治主導とは、政治家が『微に入り細に渡り』すべてを実行することではない。
- ・大臣、副大臣たる省庁のトップは、大目標を示し、その具体案を官僚以下の公務員に策定・実行させる。
- ・その際、5W1Hおよび『報告・連絡・相談』を徹底させ達成できない者には、職を辞する意識を植え付けなければならない。
- ・いずれにしても、官僚組織の壁を破る強固な意思と実行力が政治家に求められる。
- ・幸か不幸か、縦割り組織に固まっている今こそ、壁が崩れ始めると意外に脆いようにも感じる・・・今こそ決起の時

vector

http://www.olive-x.com/news_30/newsdisp.php?n=95525